

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース “黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)
〒271-0092 松戸市松戸 1834- 5 小川ビル 2 階
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546
E-mail: yellowhandkerchief1834@gmail.com

「伝えたい大震災の記憶、学びたい大震災の体験」をテーマに ワークショップと講演のつどいを開催

9月6日(日)に松戸市女性センターを会場に、伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験 part2を開催しました。避難者を含めて、60名以上が参加しました。今回のテーマは都市型災害。いつ起きてもおかしくない直下型震災に対する防災・減災について学びました。午前は女性センターの外に出て防災マップ作りをしました。午後は直下型地震に対して取り組むべきことについて講演をしました。



街歩き & 防災マップ作りのポイントについてお話する
千葉商科大学の勅使河原隆行先生。

街歩き & 防災マップ作り



5~6人のチームを作って、災害時に避難所へ移動をする際に注意しなければならないところを白地図にチェックして歩きました。

阪神淡路大震災から20年経て思うこと。(蓮本先生)



減災・福祉パートナーズの蓮本浩介代表は、写真や動画を使って阪神淡路大震災のことを振り返り、減災のポイントを紹介しました。

松戸市内で取り組む活動を紹介(所先生)



栗ヶ沢中学校区防災委員会の所正明会長は「近助」という言葉を使って公助・自助・互助の他に隣近所同士の助け合いの必要性を述べました。

参加者の声

～参加者アンケートより

- ・想定外を想定する。難しいですががんばって行きたいです。
- ・市民の皆さんが防災や緊急時自分の事として捉える機会素晴らしいと思いました。
- ・避難している方ともともと住む松戸の方との交流も素晴らしいです。
- ・敗北感を持つほど自分は防災が出来ていないと思いました。家に帰ったら備えたいと思います。
- ・電柱、フラワーポットも気を付けると発見。ビルからの落下物は気を付けるようにしなければ。
- ・孫にも再確認したいと思いました。

みんなの広場

あの震災が、起きてから5年目を迎え仕事を失い松戸へ避難、今、30k圏内の南相馬市の自宅に帰ってもかつて近所付き合いをしていた家などからはよそ者として見られる。どうして?なぜ?帰れないし今も仕事がない、半年後には税金はきっちり取られまだ年金もなく、前のように豊かな自然の恵みがあった生活はなくお金は出て行くばかり、借り上げ住宅で心配はつきない。

南相馬市 女性 60才代

いつかラジオで福島のだこかの町長が言っていたけど一番言いたいことは「みんなカットされる」と言っていた。それを聞いて、「ああ やっぱねえ、期待する程の気持ちすら持てないハンな世の中なんだから一体、復興で何なんだ?」

宮城県 40才代 男性

世間では格差の文字ばかりが目につくこの頃、避難者にとっては、さらに避難先でも行政格差、補償問題でも賠償格差がある。今までは所得格差、男女格差、地域格差などが一般的だったけど福島に対してはこんな分断、誰がした?絆はどこに?

南相馬市 女性60才代

3. 11....あの日以来5年目を迎えようとしている今でさえも、全国にはおおくの避難者が存在し東北3県、関東でも地震、津波で家を流された人々は大勢いる、福島に限っては東電からの補償、賠償も理不尽な線引きによってははずされ、明日の生きることさえ脅かされ相談する人もなく不安を抱え孤独のうちにひっそりと生活している人々が今だに大勢いるのが現状なのでこの様な人々にこそ光をあて生きる希望を少しでも持てるような支援が必要なのではないか?

南相馬市 男性60才代

避難者の「先の見えない不安」から少しでも気持ちが和らぎ心が軽くなるように願いながら投稿のコーナーを作りました。日々の暮らしで感じた想い、不安や不満、本音なんでもOKです。匿名で結構ですので是非お便り下さい。又、質問などありましたら、内容によっては専門家におつなぎします。(FAX、メール、お葉書、手紙にて受付中)

避難者の体験記

連載! 私はあの時こうだった 半杭勇一さん (福島県南相馬市)

被災者の方に、3.11の貴重な体験を一人でも多くの皆さんに忘れないで知って頂き語り継ぐことで今後も起こりうるであろう大災害に対してどんな心構えができるのか? 自分自身に問いかけして頂けたら幸いです。

当時は南相馬市原町区に父母、妹、私と妻、娘(16)、息子(14)の8人家族で、私と妹は職場に、息子は友達の家、娘は受験で休校して家にいました。妻子で自宅二階でテレビを見ていたら、ぐらぐらと揺れて、すぐ収まるか! ? と思っていたら、体感したことのない物凄い揺れで、収納庫の中から廊下に散らばり、下駄箱は倒れ、「何これ?」「いつまで続くの! ?」でした。私は海沿いに勤務しており、備品類がガチャガチャに散らばり、揺れが収まった後、別の建物から海を見ていたら、津波が見え、その内に隣の会社の駐車場に波が上がり、流されて、呆然でした。

通勤道路は水没したので、山道を抜けて6時頃帰宅。息子は別の友達の家にはいましたが、無事帰宅。昔飛行場だったので、地盤は固かったため、井戸水、電気は大丈夫でした。親戚は避難して、私達にも急かします。当時、伯母は寝たきりで、避難バスには乗せられない、ということで、悩みましたが、私達世帯だけ、19日に石神二小から取手

行きのバスに乗り込みました。南相馬市と災害協定しており、支援物資を運んでの帰りだったらいい。バス三台、飯館と川俣を通り、高速に乗り、壬生で地震の影響で一般道に降りて、11時にかたらいの郷に到着、夕食を頂きました。当時三カ所に分かれ、希望者は取手競輪場選手宿舎に移動し、6/1までお世話になりました。年度末で、避難して学校はどうすれば! ? 不安はありましたが、取手教育委員会の対応で、始業式～登校できました。娘は飯館高校で、避難前から連絡をとっていたため、転校手続きも早かったです。

震災から4年経ちました。たくさんの人達に助けられ感謝しています。環境の変化に慣れようと無理をして、感覚的に麻痺していた気がします。1年半過ぎた頃、息子に、「去年の今頃、死にたかったわ～」と言われ、驚きました。「まあ、克服した結果ですけどね～」(親も信頼された証拠! ?) これまでの出会いを大切に、できる範囲でお返していきたいです。

保子の窓

東日本豪雨で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

松戸市市民活動助成事業「伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験 part 2」事業ご協力の御礼

松戸市副市長、松戸市社会福祉協議会会長、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、松戸市危機管理課などの皆様方にご参加頂きました。ありがとうございました。参加者の皆さんのアンケートには(わが街を見直すことの大切さ)などが述べてありました。実施いたしました事業の中から課題も見つかりました。その課題解決に向けてこれからも事業を継続していきます。ご支援よろしくお願い申し上げます。

ご寄贈ありがとうございました。ミドリ安全様から、長期保存可能なカロリーメイトを参加者に頂きました。



2015年度サポーター会員募集しています。

松戸・東北交流プロジェクトでは、千葉県に避難をしている皆さんと交流・支援をする活動をしています。この活動を応援していただくサポーターを募集しています。交流サロン黄色いハンカチで受付をしています。

個人:1口1000円 法人・団体:1口5000円

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」10月の予定

毎週火水木 10時～16時オープン中。利用は1回100円です。

6日(火) 歌の日

担当:前田洋子さん

13日(火) 相談デー

担当:古宮保子
賠償問題・放射能問題、健康問題、ささいなことでも何でも!

14日(水)28日(水)13時半～

はじめての囲碁教室

担当:今田靖雄さん

20日(火)13時半～

手芸の日 担当:戸丸栄子さん 今月は巾着袋を作ります!

21日(水)13時半～15時

アロマの日 担当:長谷川みずずさん

タオル2本をご持参ください。

22日(木)

ママカフェ

27日(火) 広域避難者交流の日

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」アクセスマップ

松戸駅西口から徒歩5分(八百屋さんの隣のビル2Fです。)

